

## 令和5年度 学校評価(自己評価・学校関係者評価)

### 1 はじめに

令和5年度の青ヶ島小中学校の教育活動に関して、学校教育法第42条、学校教育法施行規則第66条、67条、68条に基づき、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について、評価を行い、改善方策を講じることを学校評価といいます。学校評価を行うにあたり、学校自らが評価を行う事を自己評価といい、①教職員による「重点的な取り組みと評価」に対しての総合的な評価を行います。その際の参考として、②児童・生徒による授業評価、③地域・保護者による「学校の教育活動に関するアンケート」を活用し、多面的に評価を行います。その自己評価に対して、地域や保護者からなる評価委員会(青ヶ島においては学校運営協議会が行う)が、評価を行うことを学校関係者評価といいます。自己評価並びに学校関係者評価は、村民に対して公表することとなっています。

### 2 令和5年度の教育目標と目指す児童・生徒像

<教育目標「自立」>

【小学校】

- ・よく考え やりとげる子
- ・思いやりがあり 助け合う子
- ・明るく たくましい子

【中学校】

- ・自ら考え、工夫し、進んで学びつづける生徒
- ・心豊かで、互いに尊重し合える生徒
- ・心身ともに健康で、たくましく生きる生徒

### 3 経営の基本方針

一人一人の児童生徒を大切にする。  
教育活動を行う上での重点(子供たちに身に付けさせたい力)  
自立のための【3i アイ(愛)】  
Oidentity(主体性、独自性) 自分の故郷(青ヶ島)を語れる力  
Oindividual(個性を発揮した) 唯一無二の存在として自分を知り、社会に貢献する仲間と協働する力  
Ointerest(もっと知りたい、関わりたいと思う気持ち) 好奇心、探究心

### 4 青ヶ島小中学校の教育活動

#### (1) 学習指導「楽しく分かりやすい授業」



かんも・里芋・稲の栽培等、地域人材・資源を活用した学びの充実



学びへの好奇心、探究心を高める個別最適な学びの充実



タブレット端末を効果的に活用した学習の充実

## (2) 生活指導・進路指導「一人一人の特性を理解し心に寄り添う指導の実現」



児童・生徒理解に基づいた寄り添う指導の充実  
(写真は小学校 いじめの授業の様子)



人権尊重教育推進校の実践と心を耕す道徳教育の充実



9年間を見通した生活指導の充実(写真は小学校生活オリエンテーションの様子)

## (3) 特別活動・その他「すすんで取り組み、責任をもってやりとげる活動」



異学年集団の中で合意形成を図りながら行う学級活動



小中学生による「くろしお会」が企画した集会活動



集団の中で互いの良さを認め合える活動・地域交流の活動

## (4) 学校運営「全教職員の学校運営への参画」



学校運営協議会との連携・協働。(写真はR4CS研修の様子)



全教職員・保護者・地域の方が参加する運動会の実施



小中学生合同による学習発表会の実施(会場に作品掲示)

## 5 自己評価について

前述の中期目標を達成するために、令和5年度の重点的な取り組みとして、「学習指導」「生活指導・進路指導」「特別活動・その他」「学校運営」の4領域の項目に取組目標等を設定し、その達成度を評価しました。また、児童・生徒による授業評価、地域・保護者による「学校の教育活動に関するアンケート」を実施し、自己評価の参考としました。

(1) 教職員による「重点的な取り組みと評価」(実施日:令和5年11月)

①小学校教員(7名)※養護教諭、事務職員含む

※濃い網掛けは、本校として課題と捉える評価項目。

※達成度は、教員が下記の4段階で自己評価した結果を集計した平均値です。

「A」ほぼ達成(90%) 「B」おおむね達成(70%) 「C」やや不十分(40%) 「D」不十分(20%)  
 ※合計が100%になるように、小数点以下を調整しています。

評価目標	評価項目	A	B	C	D	無
全教職員の 学校運営への 参画	1 目的とねらいを明確にして、起案を行っている。	43%	29%	14%	0%	14%
	2 前年度踏襲ではなく、今のこの現状をみて、創意工夫して教育活動を行っている。	43%	57%	0%	0%	0%
	3 未来が大きく変わっていることを理解し、持続可能かどうかの視点をもち、教育活動を行っている。	29%	29%	29%	0%	13%
	4 学習指導要領を適正に遵守している。	43%	43%	0%	0%	14%
	5 学校予算はコスト意識をもって効率的に、計画的に予算執行している。	29%	57%	14%	0%	0%
楽しく分かりやすい授業	6 児童・生徒の能力に応じた個別最適な学びを保証できている。	29%	29%	14%	0%	28%
	7 早期(単元・題材のまとまりごと)に児童・生徒の学習状況を把握し、授業改善を行っている。	43%	29%	0%	0%	28%
	8 児童・生徒の学びへの好奇心が高まる授業を行い、「なぜ」「どうして」を大事にしている。	14%	43%	14%	0%	29%
	9 道徳の時間をはじめ道徳教育を充実し、自分の考えを基に討論する機会を積極的に設け、内面に根ざした道徳性の育成を図る。	14%	29%	29%	0%	28%
	10 ICTの効果的活用(タブレット端末、デジタル教科書)を行っている。	14%	29%	29%	0%	28%
一人一人の 特性を理解し、 心に寄り添う 指導の実現	11 児童・生徒理解に基づいた寄り添う指導を行っている。	57%	29%	0%	0%	14%
	12 内的心情に訴える生活指導を行っている。	14%	71%	0%	0%	15%
	13 多様な価値観を認められるようにしている。	29%	29%	29%	0%	13%
	14 仲間、人を大切に、思いやる心を育てている。	29%	57%	0%	0%	14%
	15 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながらキャリア教育の充実を図っている。	29%	29%	42%	0%	0%
すすんで取 り組み、責 任をもって やり遂げる 活動	16 保護者・地域と協同して学校行事を行っている。	43%	29%	14%	0%	14%
	17 異年齢集団の中で、合意形成を図りながら活動を行っている。	43%	43%	0%	0%	14%
	18 ガイダンス機能を働かせ、児童・生徒がSOSや悩みを発信できる働きかけを行っている。	57%	29%	0%	0%	14%
	19 児童・生徒が自主的、実践的に取り組むことと共に自発的、自治的な活動を行う。	14%	57%	14%	0%	15%
	20 集団の中でお互いの良さを認められるようにする。	14%	57%	14%	0%	15%
教育公務員 としての資 質・能力の 向上	21 東京都人権尊重教育研究指定校として、人権尊重について、最新の教育課題に取り組んでいる。	43%	43%	0%	0%	14%
	22 新しい教育課題に関心をもち、研修と研究を行っている。	29%	71%	0%	0%	0%
	23 教職員の仕事の効率化等ライフワーク・バランスの推進を行っている。	29%	57%	14%	0%	0%
	24 教育公務員としてのコンプライアンスの徹底を行っている。	43%	29%	14%	0%	14%
	25 学校だより、学校ホームページ、各種たよりを活用し、家庭や地域に積極的な情報発信を行い、連携と相互協力を推進している。	29%	57%	0%	0%	14%

## ②中学校教員(10名)

※濃い網掛けは、本校として課題と捉える評価項目。

※達成度は、教員が下記の4段階で自己評価した結果を集計した平均値です。

「A」ほぼ達成(90%) 「B」おおむね達成(70%) 「C」やや不十分(40%) 「D」不十分(20%)  
 ※合計が100%になるように、小数点以下を調整しています。

評価目標	評価項目	A	B	C	D	無
全教職員の 学校運営への 参画	1 目的とねらいを明確にして、起案を行っている。	60%	40%	0%	0%	0%
	2 前年度踏襲ではなく、今のこの現状をみて、創意工夫して教育活動を行っている。	30%	60%	10%	0%	0%
	3 未来が大きく変わっていることを理解し、持続可能かどうかの視点をもち、教育活動を行っている。	50%	40%	10%	0%	0%
	4 学習指導要領を適正に遵守している。	80%	20%	0%	0%	0%
	5 学校予算はコスト意識をもって効率的に、計画的に予算執行している。	40%	40%	20%	0%	0%
楽しく 分かりやすい 授業	6 児童・生徒の能力に応じた個別最適な学びを保證できている。	70%	30%	0%	0%	0%
	7 早期(単元・題材のまとまりごと)に児童・生徒の学習状況を把握し、授業改善を行っている。	80%	20%	0%	0%	0%
	8 児童・生徒の学びへの好奇心が高まる授業を行い、「なぜ」「どうして」を大事にしている。	60%	30%	10%	0%	0%
	9 道徳の時間をはじめ道徳教育を充実し、自分の考えを基に討論する機会を積極的に設け、内面に根ざした道徳性の育成を図る。	60%	40%	0%	0%	0%
	10 ICTの効果的活用(タブレット端末、デジタル教科書)を行っている。	40%	50%	10%	0%	0%
一人一人 の特性を 理解し、心 に寄り添う 指導の実 現	11 児童・生徒理解に基づいた寄り添う指導を行っている。	70%	30%	0%	0%	0%
	12 内的心情に訴える生活指導を行っている。	60%	40%	0%	0%	0%
	13 多様な価値観を認められるようにしている。	40%	60%	0%	0%	0%
	14 仲間、人を大切に、思いやる心を育てている。	50%	30%	20%	0%	0%
	15 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながらキャリア教育の充実を図っている。	30%	60%	10%	0%	0%
すすんで 取り組み、 責任をも ってやり 遂げる活 動	16 保護者・地域と協同して学校行事を行っている。	60%	30%	10%	0%	0%
	17 異年齢集団の中で、合意形成を図りながら活動を行っている。	60%	30%	10%	0%	0%
	18 ガイダンス機能を働かせ、児童・生徒がSOSや悩みを発信できる働きかけを行っている。	70%	30%	0%	0%	0%
	19 児童・生徒が自主的、実践的に取り組むことと共に自発的、自治的な活動を行う。	40%	60%	0%	0%	0%
20 集団の中でお互いの良さを認められるようにする。	30%	40%	30%	0%	0%	
教育公務 員としての 資質・能力 の向上	21 東京都人権尊重教育研究指定校として、人権尊重について、最新の教育課題に取り組んでいる。	70%	30%	0%	0%	0%
	22 新しい教育課題に関心をもち、研修と研究を行っている。	50%	50%	0%	0%	0%
	23 教職員の仕事の効率化等ライフ・ワーク・バランスの推進を行っている。	80%	10%	10%	0%	0%
	24 教育公務員としてのコンプライアンスの徹底を行っている。	40%	50%	10%	0%	0%
	25 学校だより、学校ホームページ、各種たよりを活用し、家庭や地域に積極的な情報発信を行い、連携と相互協力を推進している。	80%	20%	0%	0%	0%

### ③自己評価【教職員による「重点的な取り組みと評価」について】

小学校教員・中学校教員による評価結果において、特に、肯定的な割合が低い項目については、重点的に改善していく。その中で、下記の項目については、小・中学校における共通の課題として改善策に取り組んでいく。また、専門職として勤務する教職員についても、授業の様子を定期的に参観する機会を設け、全ての評価項目に関する取組状況の把握に努め、教育活動全体の質的向上を目指す。

#### ○「楽しく分かりやすい授業」内面に根差した道徳性の育成について

本項目について肯定的な回答は、小学校教員が43%であった。

小学校では第4学年の児童がいないことにより、第3学年の児童は、1名で特別の教科 道徳の学習を行っている現状がある。そのため、児童同士が互いに考えたことを共有することができない。討論する場面を設定することができないことが課題と捉えている。小中学校間で肯定的な回答の割合の差が大きい要因の一つであると考えられる。

来年度小学校では、同学年の児童同士が考え、議論することができるように、八丈町立小学校とのオンライン授業の機会を設定するなど、年間指導計画を工夫する。さらに、小中学校ともに、動作化、役割演技等の表現活動の工夫、教材提示の工夫、発問の工夫、書く活動の工夫など、指導方法を工夫し、「考える道徳」、「議論する道徳」の実現を目指す。

#### ○「楽しく分かりやすい授業」ICTの効果的活用について

本項目について肯定的な回答は、小学校教員が43%であった。

今年度は、情報教育担当教員が中心となり、情報教育校内研修を年間9回実施し、教員の ICT 活用スキルの向上に努めた。小学校では、児童が出島した際にオンライン授業を行ったり、外部講師によるオンライン授業や八丈町立小学校とのオンライン交流を行ったりするなど、ICT を効果的に活用している。しかし、日常的なICTの活用頻度については、十分とは言えない現状がある。中学校では、日常的にICTを積極的に活用した授業を展開したり、他校とオンライン交流授業を実施したりするなど、ICTの活用頻度が高まっている現状がある。

来年度は、全教員が、情報教育校内研修を通して見に付けたICT活用スキルを最大限に活用し、ICTを日常的に活用した授業改善を推進していく。

#### ○「すすんで取り組み、責任をもってやり遂げる活動」集団の中でお互いの良さを認め合う取組について

本項目について肯定的な回答は、小学校教員が71%、中学校教員が70%であった。

今年度は、開校150周年記念事業を通して、マスコットキャラクターの選定やスローガンの作成など、くろしお会の児童・生徒が、互いにアイデアを出し合い、認め合う姿を見ることができた。また、人権集会を企画し、身の回りにある人権課題について教材動画を視聴し、人権課題について知る機会を設定した。さらに、人権掲示コーナーを設置し、互いの作品の良い点を記入した感想カードを掲示するなど、互いに認め合い、自尊感情を育む環境づくりを行った。来年度も、継続して今年度の取組の充実を図っていく。



道徳授業地区公開講座授業の様子



人権集会の様子



作品掲示コーナー

**(2) 児童・生徒による授業評価(令和5年11月実施)**

①小学生(6名) ※濃い網掛けは、本校として課題と捉える評価項目。

※第1・2学年は、下記の3段階で自己評価した結果を集計した平均値です。  
 「A」とてもそうおもう 「B」そうおもう 「C」あまりそうおもわない  
 ※第3～6学年は、下記の4段階で自己評価した結果を集計した平均値です。  
 「A」そう思う 「B」 ややそう思う 「C」 あまり思わない 「D」 思わない

**【学習の取組状況に関する設問】**

	設問	A	B	C	D
1	授業に進んで取り組んでいる	87%	8%	5%	0%
2	授業前に、学習道具の準備をしている	84%	9%	7%	0%
3	わかるまで、ねばり強く考えている	84%	8%	8%	0%
4	発表や質問をしっかりと聞いている	84%	8%	8%	0%
5	相手が分かるように、自分の考えを伝えようとしている	82%	18%	0%	0%
6	学習のルールを守っている	100%	0%	0%	0%
7	学習した内容が分かるように、ノートを書いている	90%	8%	2%	0%

**【教員の授業に関する設問】**

	設問	A	B	C	D
1	先生が黒板に書く字は、わかりやすい	100%	0%	0%	0%
2	先生は、自分の話をしっかりと聞いてくれる	100%	0%	0%	0%
3	先生の授業の進む速さは、ちょうどよい	98%	0%	2%	0%
4	先生の声の大きさや話す速さは、ちょうどよい	100%	0%	0%	0%
5	先生の指示や説明は、わかりやすい	100%	0%	0%	0%

※設問は学年に応じた文言を使って質問した。表は高学年対象の文言。

②中学生(2名) ※濃い網掛けは、本校として課題と捉える評価項目。

※中学生は、下記の4段階で自己評価した結果を集計した平均値です。  
 「A」そう思う 「B」 ややそう思う 「C」 あまり思わない 「D」 思わない

**【教員の授業に関する設問】**

	設問	A	B	C	D
1	先生は生徒の学力に応じて、個人に合わせた指導をしている。	75%	25%	0%	0%
2	先生は単元のもとまりごとに、学習の振り返り(レポートや小テストなど)を行っている。	80%	20%	0%	0%
3	先生は生徒の好奇心が高まる授業を行っている。	60%	35%	5%	0%
4	先生は授業中に ICT 機器(タブレット端末など)を使用したり、生徒にも ICT 機器を活用させている。	80%	20%	0%	0%
5	先生は授業を充実させるために、いろいろな工夫をしている。	55%	40%	5%	0%
6	先生は授業の時間にすること(目標)をはっきりさせている。	75%	25%	0%	0%
7	先生は話すときに、私をしっかりと見て話している。	80%	15%	5%	0%
8	先生は私の発言や質問を丁寧に聴いてくれている。	75%	15%	10%	0%
9	先生は授業中、私が集中できる環境をしっかりと作ってくれている。	65%	30%	5%	0%
10	先生の説明や指示が分かり易く、丁度良い。	75%	20%	5%	0%
11	先生は授業中、私が解く時間や、作業の進行状況などに気を配っている。	80%	15%	5%	0%
12	先生の授業のスピードや進度は私にはちょうど良い。	75%	10%	15%	0%
13	先生は次の授業の持ち物や宿題をしっかりと確認している。	80%	10%	10%	0%

### ③自己評価【「児童・生徒による授業評価」について】

学習の取組状況に関する項目及び教員の授業に関する項目については、全項目において、「とても思う・そう思う」「そう思う・ややそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が80%を超えている。特に、「とてもそう思う・そう思う」の割合が低い項目については、下記の通り重点的に改善していく。

#### ○主体的に学習に取り組む態度について

「(小学校)わかるまで、粘り強く考えている。」については、「とてもそう思う」の割合が84%であった。昨年度の61%から23ポイントの増加である。

- ・主体的に学習する態度とは、粘り強く学習する態度や自分の学びを調整する態度を育成することである。来年度も引き続き、そのような態度を育成するために、興味関心をもって取り組める学習課題を設定し、課題を解決しようと、粘り強く、繰り返し試行錯誤する姿につなげていく。また、児童・生徒自らが、学習の計画を立て、見通しをもって取り組むとともに、適宜学習を振り返りながら、自分の学びを調整できるようにするなど、単元計画を工夫し、個に応じた学びの充実を図っていく。
- ・中学校では、タブレット端末に学習した成果を蓄積する実践を積み重ねることができた。小学校においても、Google フォーム等を活用して学習を振り返らせたり、タブレット端末を活用した学びを蓄積したりするなど、児童・生徒が主体的に学習に取り組むことができるように、ICT を利活用した学びを一層充実させていく。

#### ○授業力向上研修の実施(年間11回 写真)

今年度は、年間を通して11回授業力向上研修を実施した。次年度も、教職員が互いの授業を参観し合い、児童・生徒の学びの姿を踏まえて指導方法について協議することで、指導改善を図っていく。



小学校第3学年 外国語活動



中学校第2学年 国語



小学校第5・6学年 学級活動



中学校第2学年 総合的な学習の時間



小学校第5・6学年 学級活動



小学校第5・6学年 特別の教科道徳



中学校第1・2学年 特別の教科道徳



中学校第2学年 音楽



中学校第2学年 外国語



小学校第2学年 国語



中学校第2学年 保健体育

(3) 地域・保護者の「学校の教育活動に関するアンケート」(実施日:令和5年11月)

①アンケート結果【回答数:7名/113 地域・保護者が、4段階で回答した数値(人数)】

「A」:よくあてはまる(強くそう思う) 「B」:ほぼあてはまる(ほぼそう思う)  
 「C」:あまりあてはまらない(あまり思わない) 「D」:あてはまらない(全く思わない) 「無」:無回答・分からない  
 ※合計が100%になるように、小数点以下を調整しています。

※濃い網掛けは、本校として課題と捉える評価項目。

評価目標	評価項目	A	B	C	D	無
楽しく 分かりやすい 授業	①学校は、児童・生徒の能力に応じた個別最適な学びを保証している。	29%	29%	14%	0%	28%
	②学校は、早期(単元・題材のまとまりごと)に児童・生徒の学習状況を把握し、授業改善を行っている。	29%	14%	0%	0%	57%
	③学校は、児童・生徒の学びへの好奇心が高まる授業を行い、「なぜ」「どうして」を大事にしている。	43%	14%	0%	0%	43%
	④学校は、児童・生徒の「特別の教科 道徳」をはじめ道徳教育を充実し、自分の考えを基に討論する機会を積極的に設け、内面に根ざした道徳性の育成を図っている。	43%	43%	14%	0%	0%
	⑤学校は、児童・生徒にICTの効果的活用(タブレット端末、デジタル教科書)を行っている。	43%	29%	0%	0%	28%
一人一人の 特性を理解し、 心に寄り添う 指導の実現	①学校は、児童・生徒理解に基づいた寄り添う指導を行っている。	71%	14%	0%	0%	15%
	②学校は、児童・生徒の内的心情に訴える生活指導を行っている。	29%	14%	14%	0%	43%
	③学校は、児童・生徒に多様な価値観を認められるように指導をしている。	29%	29%	0%	14%	28%
	④学校は、児童・生徒が仲間や人を大切に、思いやる心を育てている。	43%	43%	0%	0%	14%
	⑤学校は、児童・生徒が学ぶこと、自己の将来とのつながりを見通しながらキャリア教育の充実を図っている。	29%	29%	0%	0%	42%
すすんで取り 組み、責任を もってやり遂 げる活動	①児童・生徒は、保護者・地域と協同して学校行事を行っている。	71%	29%	0%	0%	0%
	②児童・生徒は、異年齢集団の中で、合意形成を図りながら活動を行っている。	57%	29%	0%	0%	14%
	③児童・生徒は、ガイダンス機能を働かせ、SOSや悩みを発信できている。	14%	43%	0%	0%	43%
	④児童・生徒は、自主的・実践的に取り組むとともに自発的、自治的な活動を行っている。	43%	29%	14%	0%	14%
	⑤児童・生徒は、集団の中でお互いの良さを認められている。	29%	43%	14%	0%	14%
全教職員の 学校運営への 参画	①学校は、保護者・地域と協働して学校行事を行っている。	71%	14%	0%	0%	15%
	②学校は、保護者会や学校便り、学校ホームページなどを通して、保護者や地域に教育情報を発信している。	29%	29%	42%	0%	0%
	③学校は、学校運営協議会と連携を取り、協働して運営している。	14%	29%	0%	0%	57%
	④学校は、運動会などの開催において、地域の方々と連携して運営を行った。	43%	43%	14%	0%	0%
校内環境	①学校は、設備・備品は充実しており、満足できる学習環境である。	14%	29%	14%	0%	43%
	②学校は、校庭やプール等の校内整備や校内美化に取り組んでいる。	57%	29%	14%	0%	0%

※網掛け黒字:「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」の回答の割合が80%を超えた項目

※網掛け(濃い)白字:「あまり当てはまらない」「あてはまらない」「無回答・分からない」の回答の割合が40%を超えた項目

## ②自己評価【「地域・保護者の『学校の教育活動に関するアンケート』」について】

### 「楽しく分かりやすい授業」

#### ○2-② 児童・生徒の学習状況の把握と授業改善について

学校では、児童・生徒一人一人のよい点や進捗の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしている。各教科において、教員は、「児童・生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、指導の改善を図っている。また、児童・生徒自身が、自らの学習を振り返って、次の学習に向かうことができるように、ワークシートやタブレット端末を活用するなど、指導を工夫している。今後も、タブレット端末を日常的に活用し、授業改善を推進していく。

#### ○3-③ 児童・生徒の学びへの好奇心が高まる授業について

学校は、児童・生徒が、「わかった」、「できた」、「楽しい」と実感することができるような「楽しく分かりやすい授業」を目指している。児童・生徒が「なぜだろう」「どうしてだろう」と不思議に思う事象に出会う機会を多く設定するために、地域・外部人材を講師としてお招きした出前授業を積極的に行っている。

今年度は、「パッションフルーツ授粉・収穫体験」、「かんも・里芋の苗植え」、「カラスバト」、「青ヶ島の自然・植生」、「稲の脱穀体験」、「バスケットボール」、「情報モラル」、「韓国の農楽」、「日本証券業協会 おかしの株式会社」、「島踊り講習会」など、様々な専門分野の方を講師として招聘した。

次年度は、児童・生徒が、より一層学びへの好奇心を高め、「青ヶ島を語る力」を身に付けることができるように、総合的な学習の時間を中心とした授業改善を推進していく。

### 「一人一人の特性を理解し、心に寄り添う指導の実現」

#### ○7-②児童・生徒の内的心情に訴える生活指導について

本校では、児童・生徒一人一人が、安心・安全に学校生活を過ごすことができるように、4月当初に生活指導オリエンテーションを行っている。「あいさつ」、「言葉遣い」、「時間の使い方」などの生活目標について、児童・生徒が、目標を立てて意識して取り組むことができるように支援している。

児童・生徒が自身の行動を振り返る場面においては、学校は、児童・生徒の心に寄り添って、自身の成長や変容を実感することができるように、支援している。今後も、児童・生徒が、自分で考えて正しい行動を選択して実践することができるように、保護者と連携して支援していく。

#### ○10-⑤キャリア教育の充実について

今年度小学校では、日本証券業協会の方を講師として招聘し、小学生が、「株式会社」について体験的な学習を実施した。架空のおかし株式会社を想定して、二人組になって新商品の開発を考え、児童一人一人がアイデアを出し合い、「株式会社」について楽しく学ぶことができた。

また、中学校では、地域の方にご協力いただき、職場体験を行っている。生徒が、青ヶ島村で働く方々の様子を見たり、実際に体験したりすることで、働くことや学ぶことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもつことができるように、支援している。

今後も、児童・生徒一人一人が、各教科の学習を通して、将来の生き方について考える活動を行っていく。

### 「すすんで取り組み、責任をもってやり遂げる活動」

#### ○13-③児童・生徒のガイダンス機能とSOSや悩みの発信について

本校では、不登校やいじめの防止、温かな人間関係づくりのために、いじめに関するアンケートや学校生活と友達関係に関するアンケートを行っている。学校は、児童・生徒が心の中で抱えている、ストレスや悩みなど、児童・生徒のSOSを見逃すことがないよう、保護者と連携して対応している。また、1年間を通して、スクールカウンセラーによる児童・生徒全員面談、保護者面談など、学校はスクールカウンセラーなどの専門家と連携して対応している。

今後も、児童・生徒が安心して学校生活を過ごすことができるように、スクールカウンセラーや関係諸機関、保護者、地域と連携を図っていく。

## 「全教職員の学校運営への参画」

### ○17-② 保護者・地域への情報発信について

今年度、本校の学校ホームページにつきましては、スマートフォンなどから閲覧しやすいように、リニューアルした。学校便りに掲載した「二次元コード」を読み取ることによって、学校ホームページに容易にアクセスすることができる。ブログを積極的に更新し、学校行事だけでなく、日常の授業の様子などについても情報発信に努めている。また、学校便り、学校要覧、その他お便りなどを学校ホームページに掲載している。

次年度は、学校便りに掲載する情報を精選し、引き続き保護者・地域の皆様に、本校の教育活動について理解を深めていただくことができるように、努めていく。

### ○18-③ 学校協議会との連携について

今年度の学校運営協議会は、年3回実施した。運動会や学習発表会後の振り返りや、令和6年度学校経営方針に関する協議など、学校運営協議会の皆様と共に、本校の教育活動の質的向上を目指して取り組んでいる。学校運営協議会からの意見をしっかりと次年度の反省に生かして教育活動の改善を図っていく。

## 「校内環境」

### ○20-① 設備・備品、学習環境について

今年度は、デジタルビデオカメラ、デジタル一眼レフカメラ、ICT 周辺機器などの備品・設備を整備し、保護者・地域限定の学校行事における YouTube 配信、保護者限定の青ヶ島小中学校 WEB 写真アルバムの公開など、情報発信を積極的に行った。次年度は、大型テレビモニター等の設備を整備し、ICT を活用した学習指導の充実を図っていく。

## 7 学校関係者評価

### (1) 委員からの質問・意見(要旨)

#### 【教職員による「重点的な取り組みと評価」】

- ・タブレットが上手に使われていると感心した。
- ・教員や保護者がアイデアを出し合っているいろいろな活動をしていることが分かった。
- ・運動会、学習発表会しか見ていないけど、教員と子供が力を合わせて頑張っていると感じた。これからは、学校ホームページをこまめに見るようにする。
- ・学校公開について、小学校の授業は専科教科が多く、国語、算数、社会、理科の授業が少なく物足りないと感じた。小学校の教員が児童と関わる授業の様子について、もっと見たかった。
- ・令和5年度は、令和4年度とは全く違う活動になったため、その反省や確認ができたので良いと思う。

#### 【児童・生徒による授業評価】

- ・子供たちのアンケートからは、教員が頑張ってくれていることがよく分かる。
- ・教員と児童・生徒のアンケートは、このままで良いと思う。

#### 【地域・保護者の『学校の教育活動に関するアンケート』】

- ・地域・保護者へのアンケートについては、学校運営協議会委員ですら、回答できるほど学校の活動について知らなかった。しっかり回答できるようにいろいろなことに参加していきたい。アンケートの回収方法については、工夫も必要だと思う。
- ・地域・保護者へのアンケートは、各質問とも答えづらい。改善が必要だと思う。結果の解釈についても、分母が非常に小さいアンケートなので、答えてくれた人の意見の割合が大きくなるため、偏りの危険性については考慮しなければいけない。
- ・今年は村民にたくさん行事に参加してもらえたので、その都度アンケートを実施し回答してもらえると、数も増えるのではないかな。昨年私が実施したイベントでもその場でアンケートを実施したことで、回答率も上が

った。

・これからはアンケートにもしっかりと協力していこうと思う。

#### 【その他】

- ・小学級の全学年1学級体制は、一人しかいない学年もあるので良いことだと思った。
- ・来年度は小1から小6まで幅広くなる。教員が多く入れ代わるため、今年と同じでは上手くいかないかも知れない。

### (2) 質問・意見に対する回答及び今後の取組・改善

学校運営協議会委員の皆様からいただいた質問・意見を踏まえ、以下の取組・改善策を進めていく。

#### ① 学校評価 保護者・地域アンケート項目の改善

学校は、アンケート項目内容を分かりやすい表現に改善し、7月の学校運営協議会で提案する。学校運営協議会委員にご意見をいただき、保護者・地域の方々が、回答しやすいアンケートになるように9月上旬までに改善を図る。

#### ② 学校評価 保護者・地域アンケート実施方法の工夫

学校は、10月広報発行時に、学校評価保護者・地域アンケートを配布するとともに、学習発表会会場にて、同様のアンケートを配布する。回答率「50%以上」を目標とし、保護者・地域の方々が、会場で回答できるようにするなど、より多くの方に回答していただくことができるように周知する。

#### ③ 学校公開・情報公開における一層の工夫

学校は、学期1回(年3回)の学校公開を実施するとともに、小学校の保護者が、小学校教員の授業を中心に参観することができるように、時間割を工夫する。また、校内研究授業や地域・外部人材を活用した授業の実施情報を周知するなど、より多くの保護者・地域の方々に授業の様子を見ていただくことができるようにする。

さらに、児童・生徒に配備したタブレット端末を活用し、保護者が日々の児童・生徒の学習状況や学習の様子を閲覧できるようにする。

#### ④ 小学校複式学級における指導体制の工夫

令和5年度に引き続き、児童数が極めて少ない現状を踏まえ、全学年1学級という異年齢集団を形成し、学級活動を全学年合同で行う。

幼児期の教育との接続及び入学当初における円滑な接続を図るために、小学校第1学年については、第1学年担当教員が、国語、算数、生活科、特別の教科 道徳において、通年で指導する体制で行う。

令和5年度に引き続き、第3学年以上については、教科ごとに指導する担当教員を配置する。児童が複数の教職員との関わりを通して、多様な価値観に触れることができるようにするために、学期ごとに担当教員を編成するなど、複数の教職員による柔軟な指導体制で行う。



学校ホームページ二次元コード